

■岡本綺堂 劇作家、小説家、劇評家。「半七捕物帳」により大衆作家を代表し、歌舞伎作者として黙阿弥後の第一人者。

おかもときどう

学問のすすめ1872= 東京高輪で、旧幕臣で英国公使館の書記官となった岡本敬之助の長男に生まれる。本名敬二。

明治6年政変 1873= 1歳：英国公使館の移転に伴い、一家で麹町区飯田町に転居。

初の民間工場1875= 3歳：五番町に公使館が新築落成したのに伴い、近くに新築転居。父から三字経の素読を学ぶ。

琉球処分・・・1879= 7歳：父に連れられ、初めて新富座に芝居見物し、楽屋に市川団十郎を訪ねる。

明治14年政変1881= 9歳：父に漢詩、叔父に英語を学び、英公使館の留学生からも英語を学び、外国童話など聞く。

新体詩抄・・・1882=10歳：麹町平河小学校に編入。

秩父事件・・・1884=12歳：東京府立一中に入学。

帝国大学始・・・1886=14歳：「戯作を読んだり、英公使館の留学生からシェークスピア物語を聞き、演劇改良会が興ったことに刺激され、劇作家になろうと決意、父の賛成も得て、諸劇場を見て回り、英公使館書記アストンの感化を受け、

帝国憲法発布1889=17歳：卒業。歌舞伎座が開場し、団十郎の紹介で福地桜痴に会う。

帝国議会始・・・1890=18歳：父の知人関直彦が社長の東京日日新聞に入社。劇評を始め、綺堂と名乗り、先輩からも教え受け、

大津事件・・・1891=19歳：夜学に通うべく京橋に借間。「同人雑誌」に「盲心中」、東京日日新聞に「高松城」発表。

大本教・・・1892=20歳：尾張町の下宿に移り、志願兵は体格で不合格。三十間堀に一戸を構える。

郡司千島探検1893=21歳：退社し、中央新聞に移って社会部長となり、劇評も担当。

日清戦争始・・・1894=22歳：有楽町に移る。日清戦争が始まると、編集多忙になり、脳貧血で卒倒するなどしたため、辞して、創刊された絵入日報社に入る。

日清戦争終・・・1895=23歳：絵入日報社不振で退社。実家に戻り、地方新聞の小説や雑誌の記事を書く。

白馬会・・・1896=24歳：英公使館武官の日本語教師。自由党機関紙東京新聞社に入るも度々発行停止。「処女戯曲「紫宸殿」発表。

八幡製鉄始・・・1897=25歳：結婚。

子規句歌革新1898=26歳：東京新聞社も解散。この頃、しきりに戯曲を書くも、各劇場の閉鎖性のため、手元に溜まって行く。

Bushidou・・・1899=27歳：

ピアノ国産化・・・1900=28歳：やまと新聞社に入るも、

田中正造直訴1901=29歳：経営困難となり、退社。

教科書疑獄・・・1902=30歳：父が死去。「岡鬼太郎と合作の「金鯨高浪」が歌舞伎座に上演され、自作初演となるも、不評。

日比谷公園・・・1903=31歳：英公使館内の留学生の語学教師となった後、東京日日新聞に再び勤務。

日露戦争始・・・1904=32歳：日露戦争に従軍記者として渡満。

日露戦争終・・・1905=33歳：各社の演劇記者が組織した文士劇若葉会で、自作「天目山」上演。

満鉄発足・・・1906=34歳：若葉会が東京毎日新聞演劇会となり、移籍するとともに、俳優鑑札も受け、自作自演するも不評。

アヲテ創刊・・・1908=36歳：東京毎日新聞の経営移動で全員退社、演劇会も解散。*川上音二郎の依頼で、2世市川左団次のために「維新前後」を書き、好評を得、最初の著書となる。

伊藤博文暗殺1909=37歳：「振袖火事」。やまと新聞に再勤。「修善寺物語」を書く。左団次のために「承久絵巻」以降次々創作。

大逆事件判決1911=39歳：「修善寺物語」初演好評で、両者提携路線定着。続いて「箕輪の心中」。梅幸・菊五郎のためにも創作。

明治天皇没・・・1912=40歳：中村歌右衛門のため「細川忠興の妻」。胃腸病となり、神経性リウマチも起こる。

大正政変・・・1913=41歳：神経衰弱等を病み、記者生活をやめ、以後作家活動に専念。「室町御所」ほか多数創作、

第一次大戦始1914=42歳：「日本新聞」に「二三雄」連載始め、多数の新聞連載長編小説を書き、新歌舞伎作者の第一人者となる。

21ヶ条要求・・・1915=43歳：「鳥辺山心中」ほか、

民本主義・・・1916=44歳：「番町血屋敷」など。再び、神経衰弱となり転地療養。

ロシア革命・・・1917=45歳：*以来20年続くことになる「半七捕物帳」は捕物帳の先駆をなす。ほかにも小説・戯曲多数。

ベルサイユ条約・・・1919=47歳：帝国劇場の嘱託となって、第1次大戦後の欧米劇壇を視察、帰国後「戦の後」を発表。

以後も毎年のように病魔におそわれながらも、毎年数編以上を発表、

原敬首相暗殺1921=49歳：

水平社結成・・・1922=50歳：母が死去。

関東大震災・・・1923=51歳：大震災に遭遇、家財蔵書を焼失し、麻布に仮寓。

護憲三派圧勝1924=52歳：大久保に移住し、初めて郊外生活。「三浦老人昔話」連載始。「綺堂戯曲集」の刊行が始まる。

治安維持法・・・1925=53歳：麹町に移住。「綺堂読物集」の刊行が始まる。

円本時代始・・・1926=54歳：震災後の区画整理が完了し、旧宅あった元園町に戻る。

金融恐慌・・・1927=55歳：*増補信長記がロシア語訳され、レニングラードで上演、「修善寺物語」は仏訳されて、シャンゼリゼー劇場で上演、ほかにも外国語訳多数。

世界恐慌・・・1929=57歳：湯河原に転地。「世界怪談名作集」の翻訳。「朝鮮屏風」「天保演劇史」。

海軍軍縮条約1930=58歳：演劇雑誌「舞台」を創刊して後進を育成し、

満州事変・・・1931=59歳：この年、万病を患い、以後衰弱して行くなか、

晩年まで劇作につとめてうまなかったが、

芥川直木賞始1935=63歳：随筆集「ランプの下にて」。訳書「支那怪奇小説集」。

二二六事件・・・1936=64歳：*「半七捕物帳」が終結すると、

日中戦争始・・・1937=65歳：劇界を代表して、帝国芸術院会員となるも、

健保+総動員・・・1938=66歳：心身衰弱、{短歌研究}の随筆「目黒の寺」を最後に、

第二次大戦始1939=67歳：没した。

質量ともに黙阿弥以後の第一人者といつてよく、独自の「綺堂物」と呼ばれる作品の多くは、今なお人気を保っており、前記以外に「佐々木高綱」「尾上伊太八」「小栗栖の長兵衛」「新宿夜話」「権三と助十」「相馬の金さん」「天保演劇史」等がくりかえして上演されている。